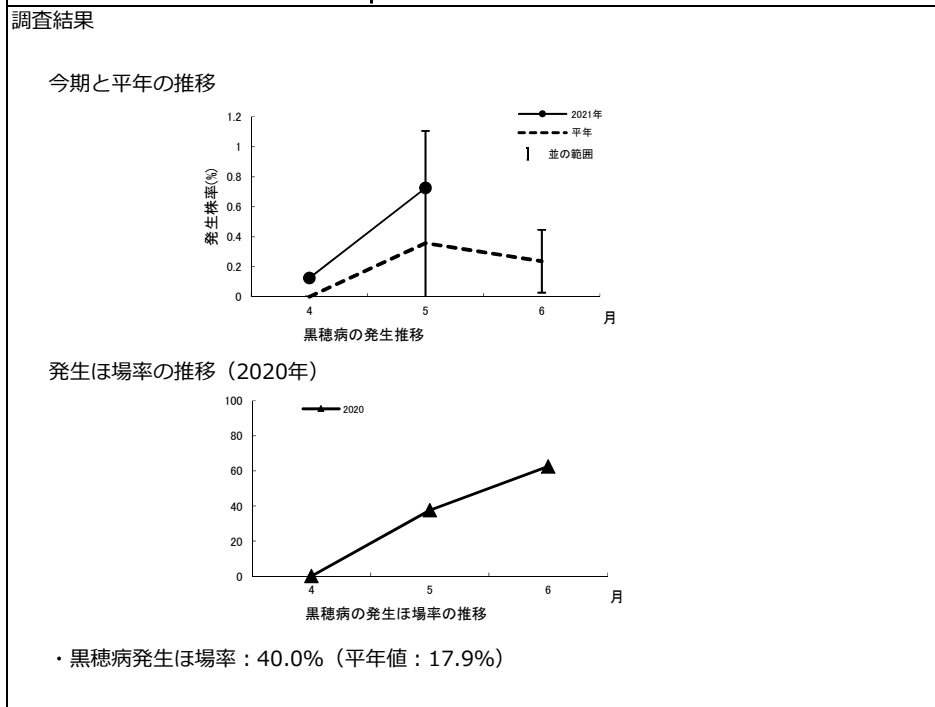


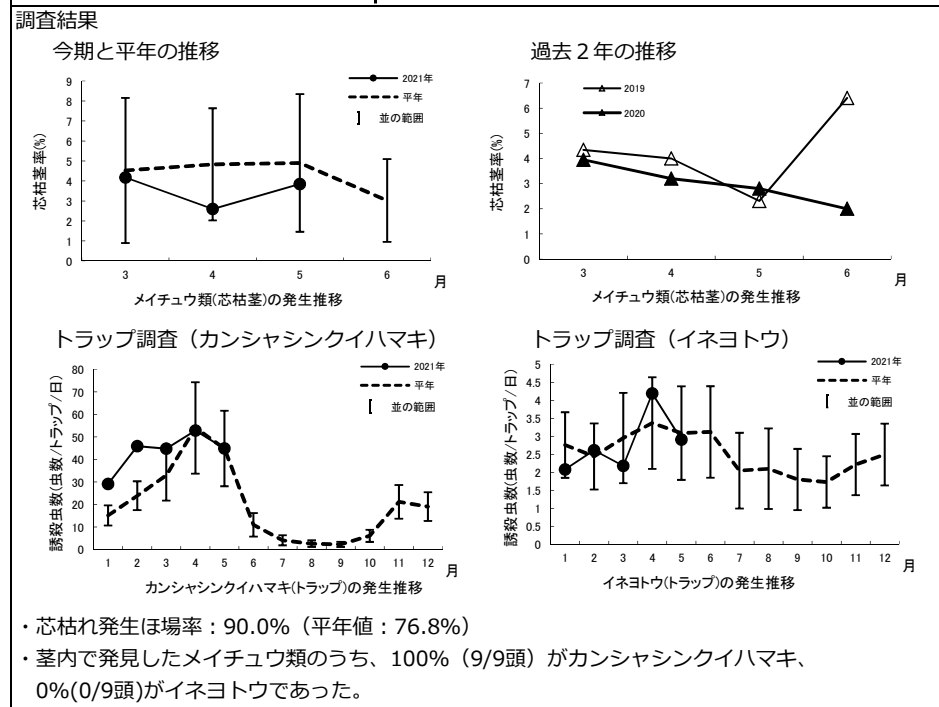
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	黒穂病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↓	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	



防除のポイント

- ・発生は4月頃から見られ、6～7月に多くなる。
- ・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。
- ・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。

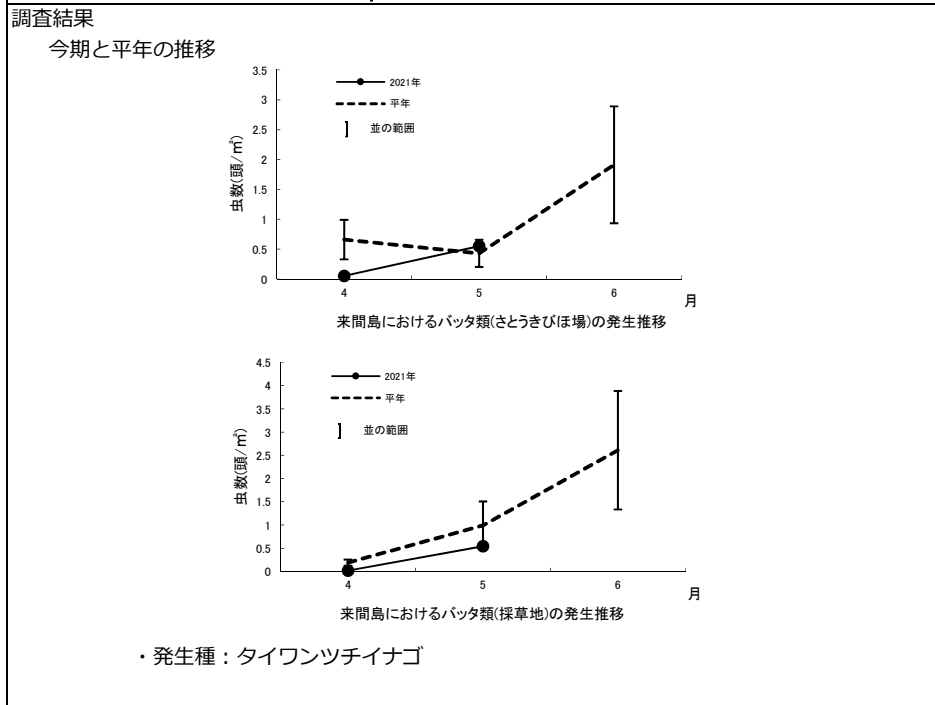
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↓	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↓)	



防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間には散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

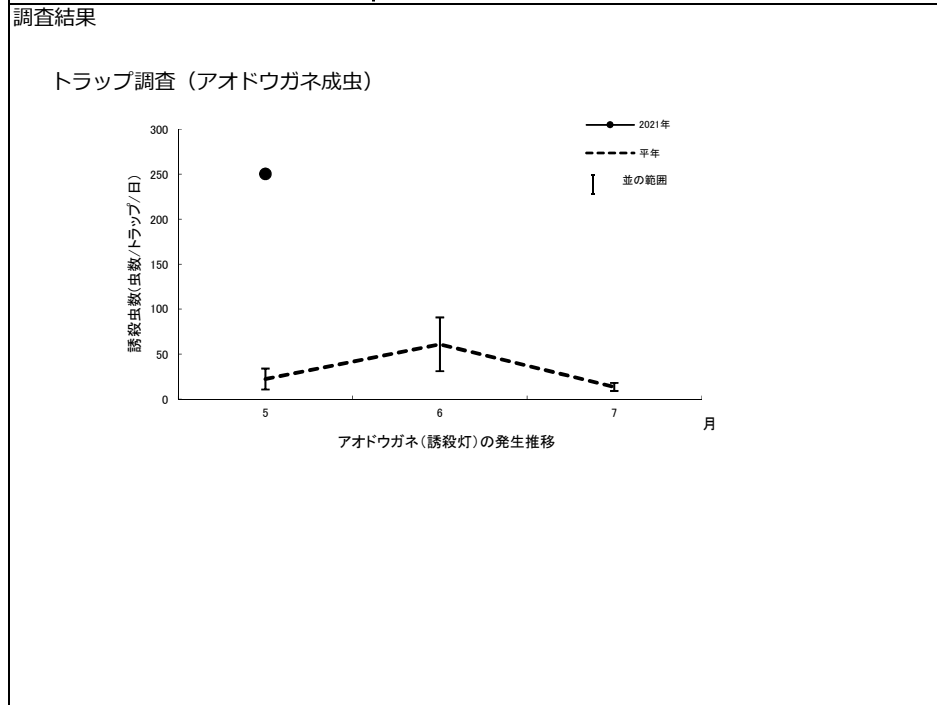
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② バッタ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (ノ)	



防除のポイント


- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

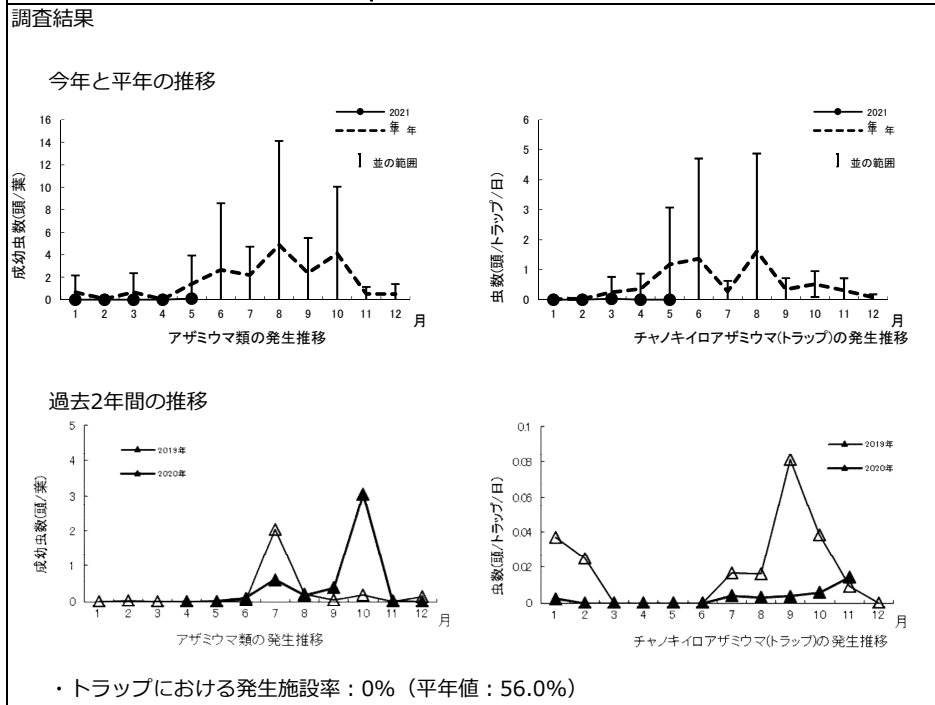
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	アオドウガネ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (ノ)	



防除のポイント


- ・サトウキビにおけるアオドウガネ被害は、土壌に生息する幼虫食害により、収穫期の立枯による減収や株出不萌芽の原因となる。成虫は5~7月に出現し、その後サトウキビなどイネ科植物の地下部に産卵する。
- ・成虫発生時期の誘殺灯による大量誘殺、6~9月の幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。


作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (ノ)		

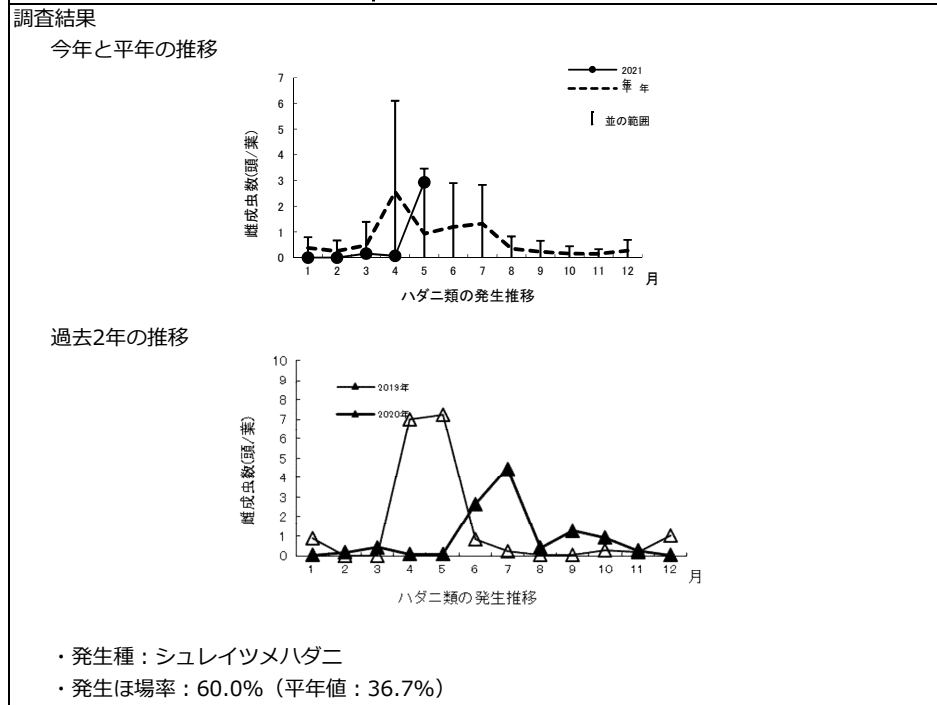


防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。


ナガエコミカンソウ 

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)		



防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

 ハダニの寄生による葉のかすれ症

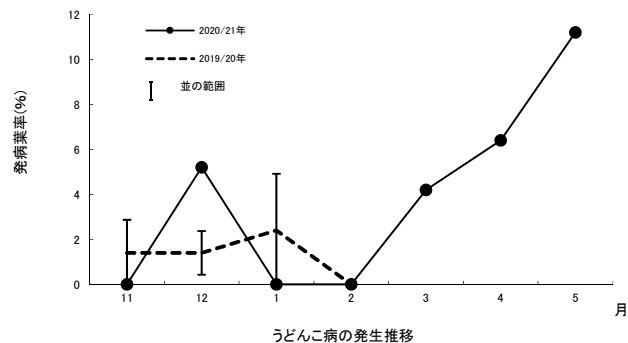
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5月の発生量(平年比)	-	
予報	5月からの増減傾向	-	
	6月の発生量(平年比)	-	



予報の根拠

調査結果

今期と平年の推移



- ・発生ほ場率：75.0%（前年：データなし）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

防除のポイント

- ・発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・除去した葉はほ場内に放置せず、ポリ袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・薬剤防除は予防散布に重点をおく。

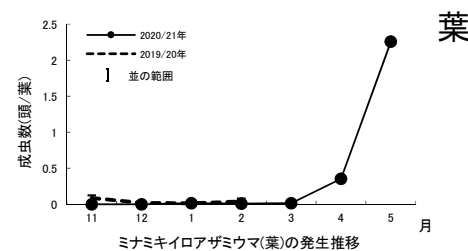
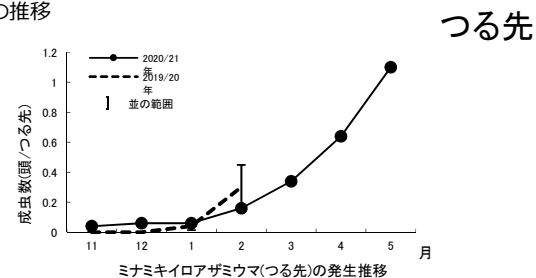
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	-	
予報	5月からの増減傾向	-	
	6月の発生量(平年比)	-	



予報の根拠

調査結果

発生数の推移

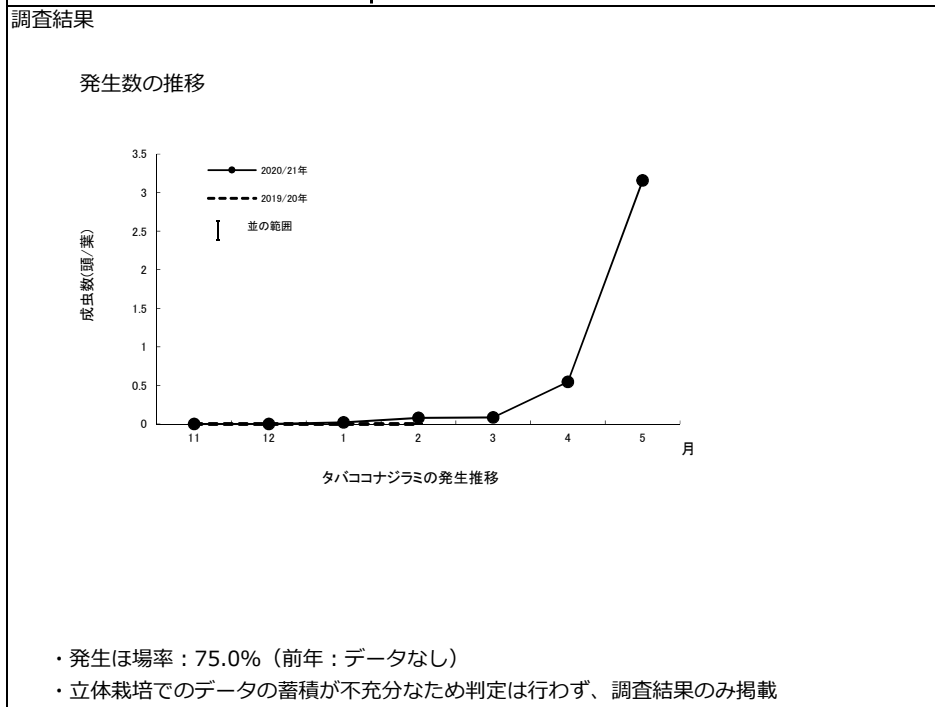


- ・発生ほ場率：75.0%（前年：データなし）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

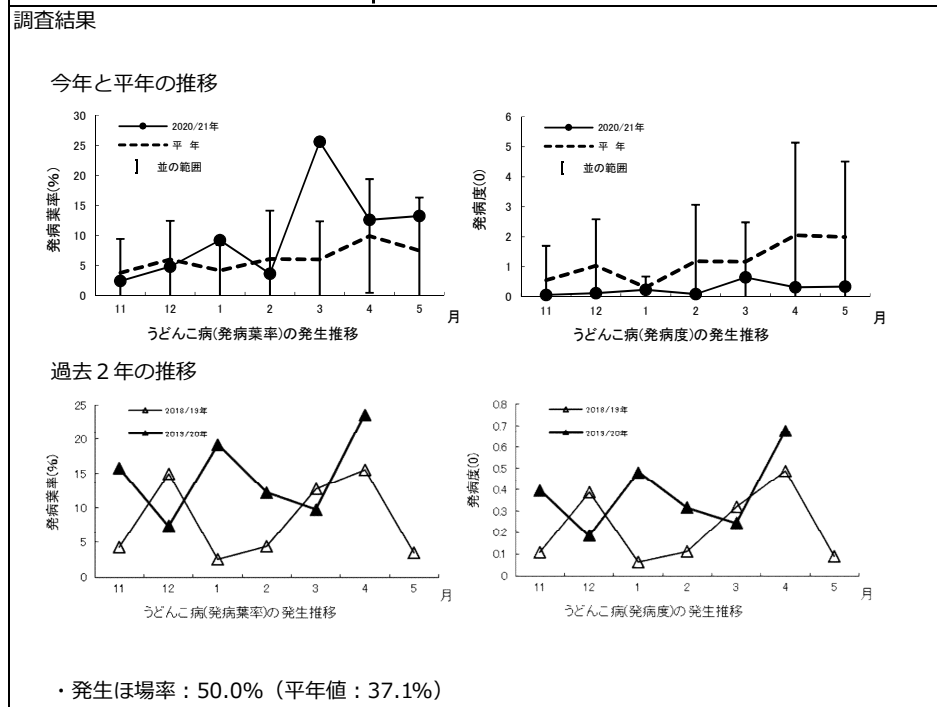
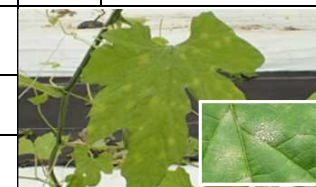
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	-	
予報	5 月からの増減傾向	-	
	6 月の発生量 (平年比)	-	
予報の根拠			



防除のポイント

- ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- 多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

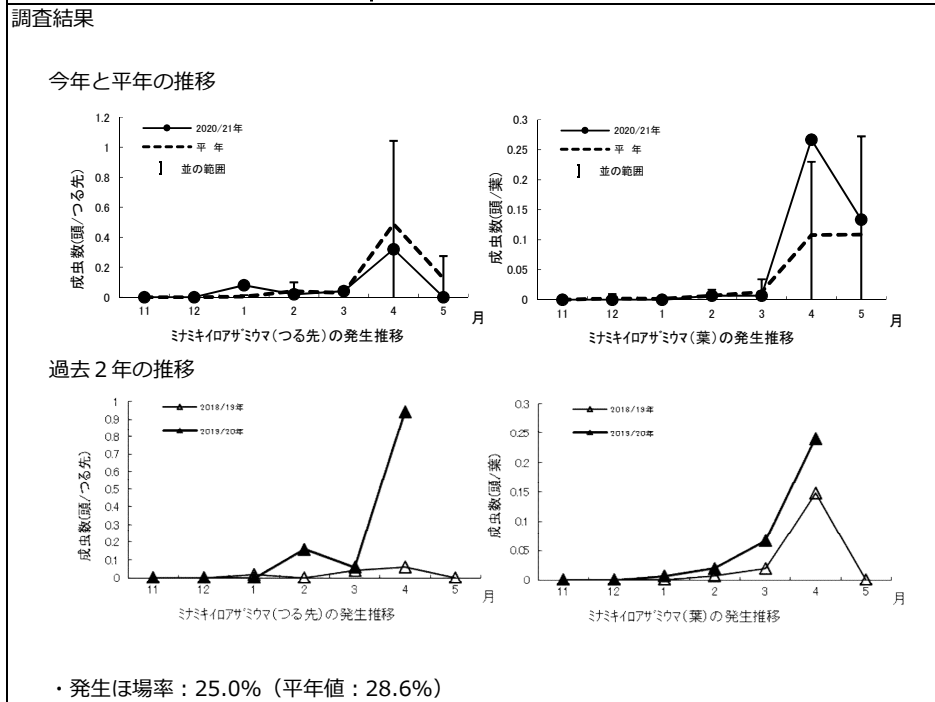
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	-	
	6 月の発生量 (平年比)	-	
予報の根拠			



防除のポイント

- 老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- 多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比) 並		
予報	5 月からの増減傾向		-
	6 月の発生量 (平年比)		-
予報の根拠			

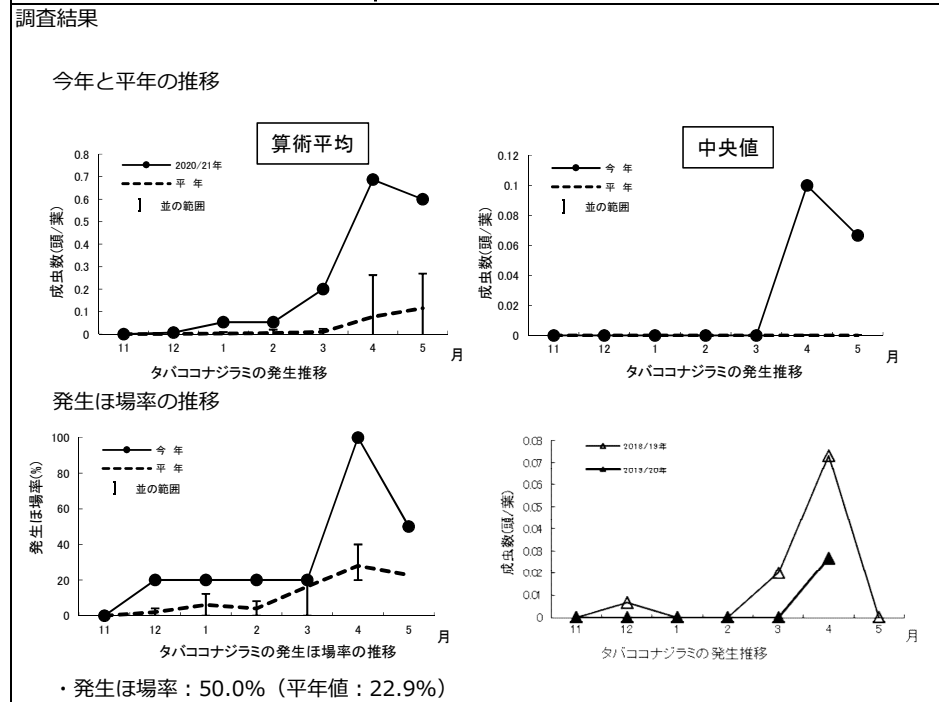


防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.7ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

果実の被害

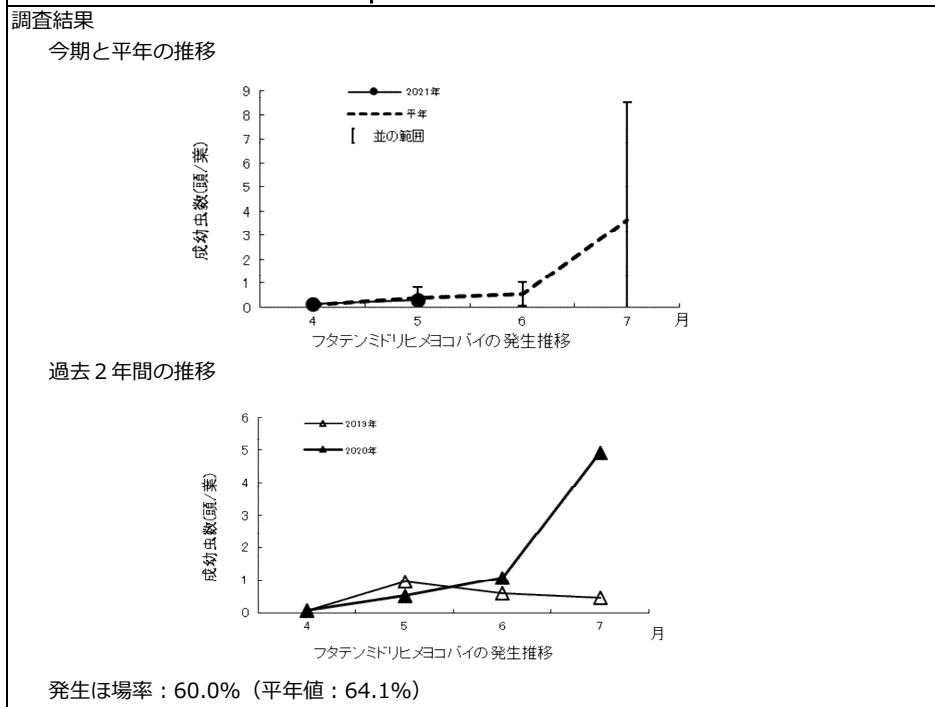
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比) 多		
予報	5 月からの増減傾向		-
	6 月の発生量 (平年比)		-
予報の根拠			



防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.7ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

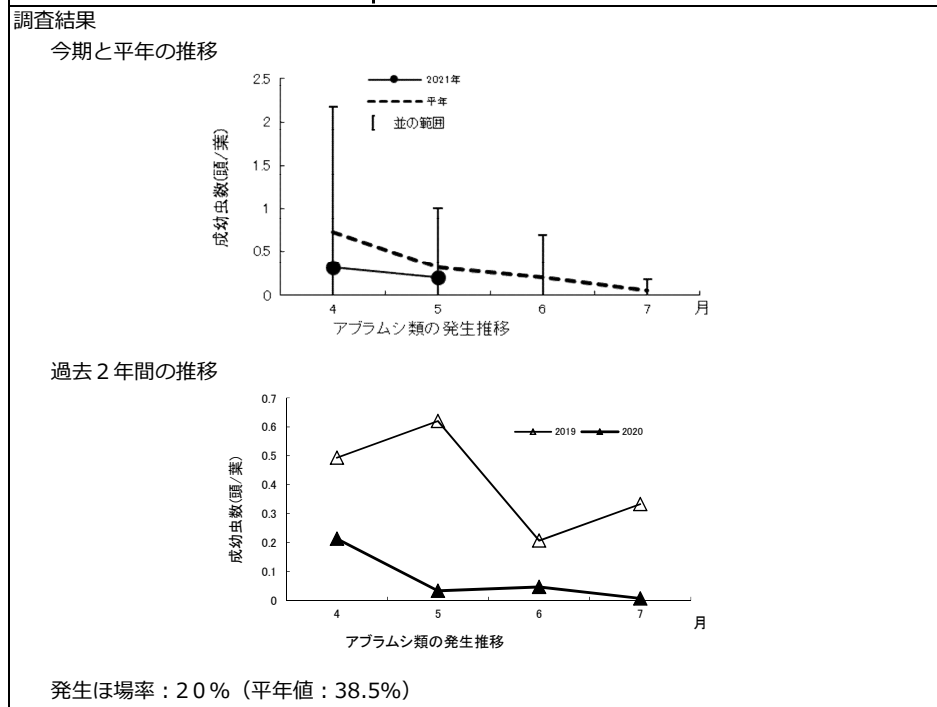
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



防除のポイント


- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

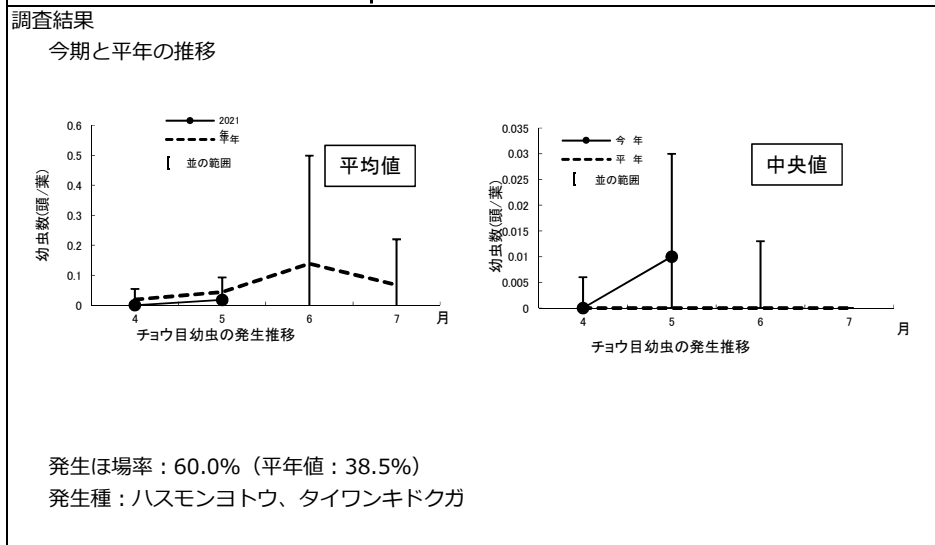
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↘	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	



防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
調査結果	5月の発生量(平年比)	並	
予報	5月からの増減傾向	↗	
	6月の発生量(平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移(ノ)		



防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。


ワタノメイガ


タイワンキドクガ


フタガリコヤガ


クサオビリンガ


ハスモンヨトウ


ワタアカキリバ